

<いろいろな暮らし*モデル事例>【記入例】

事例のテーマ	グループホームとの関係を保ったまま 実家(借家)に戻った事例(仮)		記入日	平成■■年●月▲日		
			記入者 (機関・氏名)	障がい者生活支援センター▲●		
暮らし方	実家でひとり暮らし	年齢	30代		性別	■男性 □女性
障がい種別 (疑いを含む)	<input type="checkbox"/> 身体 <input checked="" type="checkbox"/> 知的 <input checked="" type="checkbox"/> 精神 <input type="checkbox"/> 難病	障がい支援区分	3		手帳判定	<input type="checkbox"/> 身体 <input type="checkbox"/> 療育 <input checked="" type="checkbox"/> 精神 (2)級
経済状況			人・社会資源の関係図			
収入	年金 手当 貯金からの切り崩し(貯金 200 万) その他(仕送り等) 合計	66,000 円 3,500 円 50,000 円 0 円 119,500 円				
支出	家賃 生活費 その他(サービス利用料・医療費等) 小遣い 合計	40,000 円 51,000 円 20,000 円 8,000 円 119,000 円	<p>—— 普通の関係 ——— 強い信頼関係 - - - - 希薄な関係 + + + + ストレスを生じさせる関係</p>			
家族構成			住居・間取り			
			<input type="checkbox"/> 持家(戸建・マンション) <input type="checkbox"/> 親族の持家(戸建・マンション) <input checked="" type="checkbox"/> 借家(戸建・マンション・アパート・公営住宅) <input type="checkbox"/> GH <input type="checkbox"/> その他()			
<input type="checkbox"/> 男性 <input type="checkbox"/> 女性 <input type="checkbox"/> 本人 <input checked="" type="checkbox"/> ● 死去						
身元保証人	有(続柄:)・ <input checked="" type="checkbox"/> 無					
後見人	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無					
バリアフリーの整備 (有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無) ※有の場合、具体的な整備内容を記入してください						

福祉サービス等の利用状況	【支援内容】 <ul style="list-style-type: none"> ・居宅介護(家事援助) ・日常生活自立支援事業 ・C 地域活動支援センター ・短期入所 ※共同生活援助(B グループホーム) ・A デイケア(精神科) ・A クリニック(精神科) ・A 訪問看護(精神科) 	【利用頻度】 週3日 月2回 週1～2回 月4日 ※過去に利用(現在は退所) 週1～3日程度 月1回 月1回
以前の暮らし・具体的支援等		現在の暮らし
【生活の様子】 両親と同居。母親が亡くなって以降は、父親に家事能力がほとんどなかったためごみ屋敷状態だった。金銭は父親が管理しており父親から当日の食費を渡されるだけで、本人はスーパーの惣菜やレトルト食品を買ってきて食べるなどして過ごしていた。生活水準の悪化を懸念した A 病院ケースワーカーにより、B グループホームへの利用を勧められ入所。その後父親が亡くなったことにより、住み慣れた実家での生活を希望したため、B グループホームを退所し、自宅での生活を開始することになった。 【本人の希望】 ・住み慣れた実家で生活したい。 【家族の思い】 (※生前の親の意向) ・親が亡くなった後、生活の見通しが立つようにしてやりたい ・せっかく自宅があるのだから、自宅で生活させてほしい ・貯金を遺しているの、無駄使いしないように管理してほしい ・家族に迷惑をかけたくない 【具体的支援】 ・自宅に戻るにあたり、借家の名義が父親であったことから名義変更を行った。 ・家事の支援としてヘルパーを週3回利用することになった。 ・金銭管理の為、日常生活支援事業を利用し父親の預金と年金の通帳の管理を行った。 ・日中活動先として、今まで利用していた A 精神科デイケアのほか、C 地域活動支援センターも利用することになった。 ・不慮の事態に備え、元々利用していた B グループホームを短期入所先として利用できるようにした。		※前ページの状況の補足等 ・高頻度でヘルパーを利用することで、自宅内の生活環境は大幅に改善された。 ・短期入所を利用することで B グループホーム入所時の友人と定期的に交流することを楽しみにしている。時々友人を自宅に宿泊させたりもしている。 ・薬の飲み忘れが時々ある為、定期的にヘルパーに薬袋を確認してもらい、のみ忘れなどがあった場合、訪問看護事業所へ報告している。 ・土日祝日は C 地域活動支援センターに気が向いたときに顔を出し、カラオケや食事作りに参加している。時々町内会長が自宅に様子を見に来る。 ・「自宅に一人していると寂しい」とデイケアには週3日程度は参加するようになった。 ・金銭管理を自分で行えないことに対して不満はあり、日常生活自立支援事業の解約を考えているが、叔父から続けるように助言を受けており、もうしばらくは続けていくことを了承している。 ・病院には定期的に通院をしている。本人は「面倒くさい」と言っているが、B グループホーム入所時に通院していた習慣を続けられている。 ・時々 B グループホームに顔を出し、職員や利用者と雑談をしていく。よく一人暮らしができていることを自慢している。

【この事例を提出しようと思った理由】
 親亡き後、自宅で生活を継続できるようにしてほしいという家族側の相談が多いことから、実際に親亡き後、借家であっても実家で生活ができるようにするために様々な社会資源を通じて支援を行い、実際に生活が継続することができている事例として提出した。